

## 第10回北東アジア OSS 推進フォーラム議長声明(仮訳)

2011年10月18日

2004年に設立された北東アジア OSS 推進フォーラムは、OSSの普及促進を目指し、3カ国の産学官およびコミュニティの英知結集に成果を上げてきており、日中韓、アジアおよび全世界に貢献してきた。

3つのワーキンググループが、フォーラムの目標を達成するために組織化された。WG1は、Technology Development & Assessment(技術開発と評価)を、WG2は、Human Resource Development(人材育成)を、そしてWG3は、Study on Standardization and Certification(標準化と認証研究)を担っている。これらのワーキンググループの活動は、各国の政策と共有され、また、オープン化とイノベーションを伴う様々な成功例を通じたOSSテクノロジーを共有している。

北東アジア OSS 推進フォーラムは今年で10回目の開催となった。本フォーラムの閉会に際し、私たちは、3カ国の協調を通してOSSを活発に推進するための結論を導き出した。以下は、2010年の重要な結果である。

WG1:

Crackerjack プロジェクト(Linux カーネルのための自動リグレーションテストのフレームワーク)は、2011年10月にAndroidプラットフォーム用のリグレーションテストのフレームワークを公開し、互換評価のためのモバイルプラットフォームのデータベースを構築した。3ヶ国は、Androidシステムのためのリグレーションテストのフレームワークの機能を強化することに合意し、更に事業計画について日本のOESF(Open Embedded Software Foundation)と協議している。

2011年8月に、WG1のクラウドコンピューティングタスクフォース(CCTF)は、3ヶ国間でクラウド・コンピューティングの経験を共有するための非常に意味があるワークショップを北京で開催した。3ヶ国の活動として、WG1は、すべての当事者から支持を受けている"OSSベースのクラウド・コンピューティングソリューション"の選択と評価の活動を開始した。中国は、幾つかのOSSベースの典型的なクラウド・コンピューティング応用ソリューションを選択した。韓国は、クラウドOSSスタックを評価している。日本は、将来の社会クラウドサービスを研究している。3ヶ国はCCTFの努力に基づいて、クラウド・コンピューティングの模範的なパイロットプロジェクトを開始することに合意した。パイロットプロジェクトの型は、各国内での各2ヶ国協力とする。WG1は、WG1活性化のためにクラウド・コンピューティングでのビジネス活動を遂行していく。また、WG1は、IoT(Internet of Things)、スマートシティ分野のOSSに関係する技術の先見的研究を開始する。

WG2:

WG2は、2011年に、"NEA OSS Wiki"を利用したサンプルカリキュラムのバージョン2.0の導入と改善に成果があり、2012年に公開される"システム管理者のための北東アジア(NEA)OSSのサンプルカリキュラム(ドラフト3.0)"の開発に非常に大きな努力をした。WG2は、サンプルのカリキュラムにモバイルプログラミングや仮想化技術の内

容を組み込むことを決定した。WG2 は、OSS 人材育成を推進するために、西安のフォーラムでは、第6回 CJK OSS Awardと第4回 CJK OSS Special Contribution Awardを授与した。OSS のトレーニングキャンプでは、3ヶ国の先駆的な OSS 開発者が知識を教授し、学生、エンジニアや OSS に熱心な人達を魅了した。更に、OSS の人材育成・教材共有の強化と、トレーニングや相互認定の取り組みを推進する。

WG3:

WG3 は、2010 年に新しい OSS 成熟度評価プロジェクトを開始し、OMATF(OSS Maturity Assessment Task Force)を設置した。OSS のカテゴライズ、OSS 評価システムの設計および OSS の収集・分類が行われた。

2011 年には、OSS 成熟度を評価するための 90 の項目を定義し、更に WG3 が分類した典型的な 400 個の OSS から、200 個以上の人気のある OSS プロジェクト選択し、2 年間で成熟度を評価した。WG3 は、更に別の OSS プロジェクトを評価し、関連する情報を更新する。OSS の種々の特性を比較して、OSS 利害関係者が OSS の品質を評価するために、WG3 は、公共のウェブサイトになる OSS 成熟度評価リポジトリの開発に着手した。そして、OSS の評価方法と、OSS 評価ツールの使用方法を提示する。RepOSS という名前の OSS 成熟度評価リポジトリを公開した後、NEA OSS 推進フォーラムは、OSS の適用と普及を強化するために、この RepOSS を奨励するであろう。一方、WG3 は、WG3 の作業結果の適用促進のために、例えば"OSS ガバナンス"とか"テクニカルサポートセンター"の様な新しいプロジェクトの実現性を検討するための"将来の活動検討タスクフォース"を継続する。

3ヶ国の議長は、北東アジア OSS エコシステムの構築を支援し、本フォーラムは、WG4 という名前の OSS 適用推進ワーキンググループの組織化を決定する。それは、対象市場調査、適用モデル事業の実施および3ヶ国の OSS 活動成果の普及と適用を目的とする。

3ヶ国は、3ヶ国間の更なる OSS 分野の協力のために、フォーラム配下にガイダンス・コミッティを組織化することに合意した。

我々は、産官学およびコミュニティからの北東アジア OSS 推進フォーラムへの参加者各位に感謝し、我々の活動の基礎を提供してくれている世界の OSS コミュニティに深く感謝する。

第 11 回北東アジア OSS 推進フォーラムは、2012 年に日本で開催される。我々は3カ国のみならず、アジア地域の情報産業の成長のために OSS 市場が拡大する努力を続ける。